

薬剤師による持参薬の管理と服薬指導

～持参薬確認書を用いて～

鳴島病院 薬剤科 市村広子



【はじめに】

当院では、入院時に持参薬の管理を病棟から依頼された一部の患者に対して行っていたが、薬剤師が責任を持って持参薬を管理することが重要であるとの認識が高まっていることもあり、当病院でも薬剤師が持参薬確認書を用いて、入院時にほとんど全ての患者の持参薬管理と面談を通して薬剤管理指導を行ったので、その取り組みを紹介する。

【方法】

当病院では持参薬は、外来を通して薬剤科に届き、薬剤師はそれの鑑別を行い、持参薬確認書を作成し、薬とともに病棟へ送っている。病棟では医師が確認書をチェックし、継続・中止・飲み切りなどの支持をだし、薬とともに再び薬局へ送っている。薬局では持参薬を最大限に活用するために、主なる薬剤の一番多い日数に基準を合わせ、分包を行う。その際に生じた不足薬剤については医師に臨時処方を書いて貰うよう、あらかじめ協力を求めている。

持参薬分包の際には患者の名前とともに分包紙に**持参薬**という文字を分包紙に印字する。薬剤師は入院時カンファレンスにも参

加し、患者や家族の方と初回面談を行い、その時家族の方と直接薬に関する会話をを行う。入院時カンファレンス終了後には持参薬の投与日数を薬歴として提示し、薬剤管理初回面談に記録する。

【結果】

持参薬確認書により持参薬の継続・中止・飲み切りがはっきりしたことで、持参薬の使い方が明らかになった。全ての患者の持参薬を薬剤師が管理することになったことで、未採用薬品の類似薬品への変更、粉碎の有無、重複している薬剤の中止などの情報の伝達などがスムーズに行え、副作用防止や効率的な使用が行えた。持参薬をできるだけ利用する方針を取ることで、多少なりとも経済効果も上がっていると思われる。

また患者と直接話をするので、いままでの服薬状況を知ることができ、患者の現在の病状と服薬状況との関係を知ることができる。服薬状況の把握は持参薬管理上とても重要な要素となっている。

【まとめ】

持参薬鑑別書を用いた持参薬管理と薬剤管理指導により、薬剤師がチーム医療に取り組む体制ができ、薬剤師が病棟へ進出する手がかりとすることができた。

今後は持参薬の鑑別が薬剤管理指導を通して退院時服薬指導（お薬手帳の配布）や薬薬連携にまでつなげられるよう努力して、患者さまや医療関係者に喜んでいただき、チーム医療の一員と認めてもらえるようがんばっていきたい。

薬剤師による持参薬の管理と
服薬指導
～持参薬確認書を用いて～

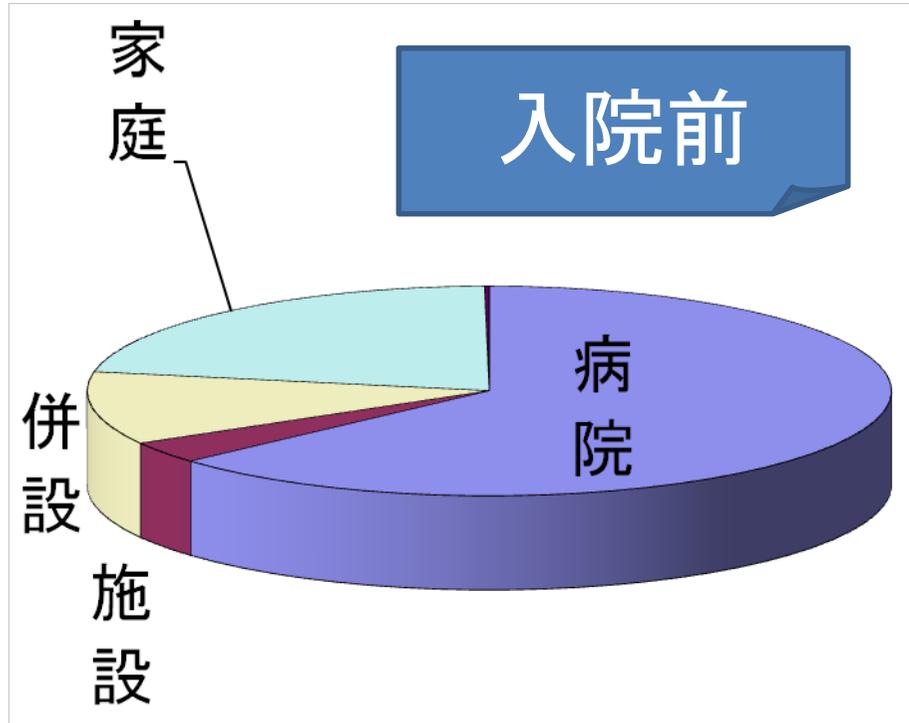
鴨島病院 薬剤科

市村広子

はじめに

- 当院は回復期リハビリ病棟80床を含むケアミックス型病院であり、持参薬の管理や有効活用の必要性が問われていた。
- 当院は今まで入院時持参薬の管理を全患者に対して行っておらず、鑑別を依頼されたときや分包する必要があるときに限られていた。
- 今回チーム医療の一環として、薬剤師が持参薬確認書を用いて患者の持参薬管理と服薬指導を行ったので、ここに紹介する。

入院時の状況



- 持参薬に関するインシデント
 - 持参薬と服薬状況のずれ
 - 医療スタッフ・患者間の理解のずれ
 - 薬歴と実物のずれ

薬剤師が責任を持って持参薬を管理する

薬剤師による持参薬管理の必要性

- 患者が入院時に持ち込んだ持参薬については薬剤科が全て薬剤鑑別をすることとする。
- 医師・薬剤師・看護師が、その品名、用法、用量、薬理作用副作用等を把握する。
- 具体的な利点
 - ①重複投与を避けることができる。
 - ②併用禁忌や併用注意を避けることができる。
 - ③医療資源である薬剤を無駄なく使用できる。

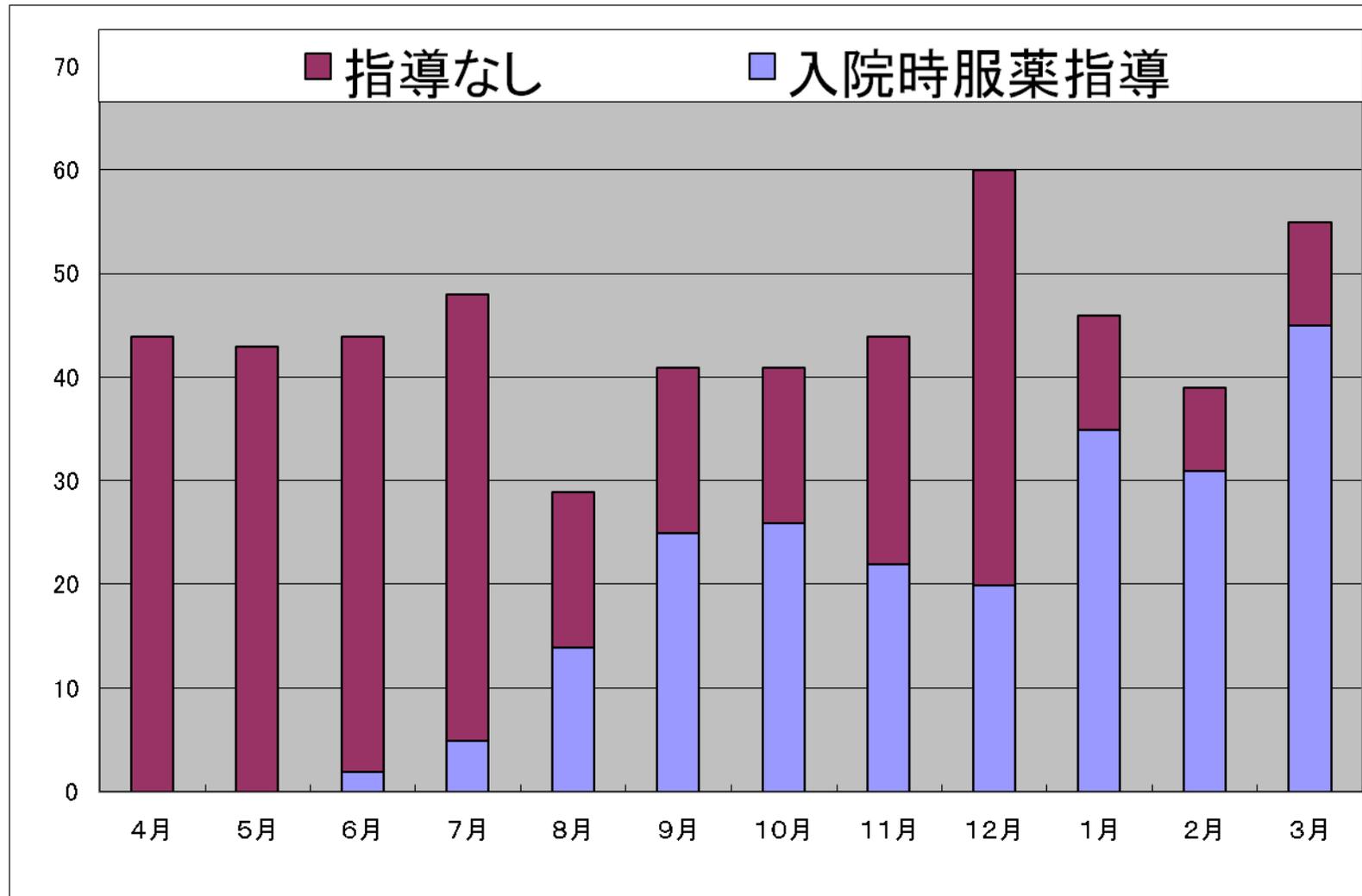
持参薬管理の手順

- ① 現物持参薬、診療情報提供書を提出（看護師）
- ② 現物持参薬、情報をもとに鑑別実施（薬剤師）
- ③ 担当薬剤師が入院時カンファレンスに参加する
- ④ 持参薬の確認、家族からの情報収集（薬剤師）
- ⑤ 持参薬現物と確認書を病棟に提出（薬剤師）
- ⑥ 継続・中止・等の指示、薬局へ提出（医師）
- ⑦ 日数を合わせて不足分を臨時処方（医師）
- ⑧ 一包化分包を行い、「持参薬」と印字（薬剤師）
- ⑨ 確認書は1部はカルテ保存、1部は薬剤科保存
- ⑩ 継続投与はなくなり次第定期薬へつなげる

薬剤管理初回面談

1
2	セロニット (330)	2T 1xA	→
3	...	1.5g 3xM	→
4	...	3錠 3xR	→
5	...	17 1xM	→
6	...	1T 1xM	→
7	...	4T 2xM	→
8	...	2T 2xM	→
9	...	2T 2xM	→
10	...	3T 3xM	→
11			
12			

入院時持参薬管理実績



結果

- 持参薬継続の指示 → 持参薬の使い方
- 入院時に管理 → 薬剤情報の伝達
- 当院変更薬の提示 → 持参薬切り替え
- 日数合わせ → 経済効果
- 薬剤師 : 服薬状況の把握・薬剤情報確認
- 看護師 : 薬剤師へ質問・病棟持参薬管理
- 医師 : 飲みきり処方・薬剤変更

まとめ

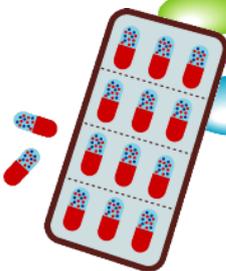
- 持参薬確認書を用いた持参薬管理と薬剤管理指導によりチーム医療に取り組む体制ができた。
- 今後は持参薬の検索→入院時カンファレンス→入院時初回面談→薬剤管理指導を通して退院時服薬指導（お薬手帳の配布）や薬薬連携にまでつなげられるよう努力したい。
- 患者さまや医療関係者に喜んでいただき、チーム医療の一員と認めてもらえるようがんばっていききたい。



入院予定日が決まった患者様へ



現在お使いのお薬を
お持ち下さい



薬局等で買った市販薬やサプリメントに
についても情報をお聞かせ下さい。



持参薬とは患者さまが入院時に持ち込まれる、普段お
使いになっている薬のことです。

いくつもの病院で薬をもらっている方もすべてお持ち
下さい。

持参薬は入院後の治療に役立つと同時にとても重要な
役割をします。

薬だけでなく、薬袋、薬の説明書やお薬手帳も大切な
情報源ですのでお持ち下さい。薬剤師が鑑別させていた
だき、確認書により情報をお伝えさせていただきます。



鴨島病院

TEL:0883-24-6565
FAX:0883-24-6572

